

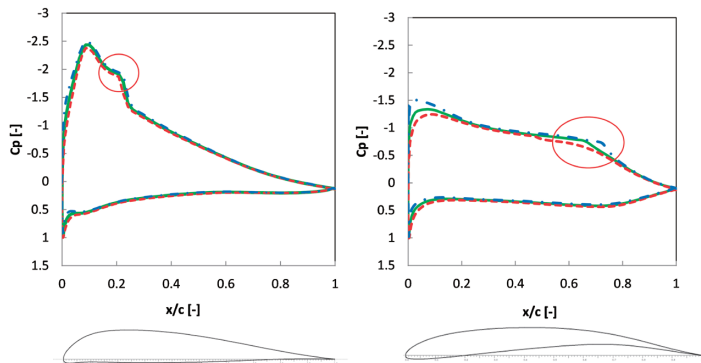
# 進化的計算手法を用いた ロバスト設計探査手法の研究

キーワード 数値流体力学 / 空力解析 / 設計最適化手法 / 航空機の環境適合性向上

## 研究概要

工学的な設計問題において、代表的な設計点(作動条件)における最適化を行い、高性能化を図ることが一般に行われている。しかし、設計点以外の作動条件や製作誤差等による形状変更の影響を受けて、期待される性能が得られない可能性がある。それらを考慮した最適化を行うためには、ロバスト最適化が有効である。

ロバスト最適化を効率よく、かつ大域的な最適解を得るために、本研究では応答曲面法と進化的計算手法を組み合わせた手法の開発を行っている。CFD(数値流体解析)に代表されるCAEソフトウェアと組み合わせることで、解析条件(あるいは形状変更)によらず高性能を実現できるロバストな設計が可能である。



最適化により得られた形状変形によらずロバストな翼型の圧力係数分布(左)と高性能であるがロバストではない翼型の圧力係数分布(右)を示す。ロバストな翼型では、形状変更に伴う圧力係数分布の変動が少ない。

## 研究者情報



佐々木 大輔 准教授・博士(情報科学)

工学部 航空システム工学科  
所属研究所：FMT研究所、航空システム工学研究所  
東北大学工学部機械航空工学科卒。同大学大学院工学研究科博士前期課程(航空宇宙工学)修了。同大学大学院情報科学研究科博士後期課程(システム情報科学)修了。イギリス・サウサンプトン大学研究員、イギリス・ケンブリッジ大学研究員、東北大学大学院工学研究科助教を経て、2012年本学講師就任。2015年現職。

研究者情報URL

<http://kitnet10.kanazawa-it.ac.jp/researcherdb/researcher/RBCABG.html>

## 今後の展開やメッセージ

最適形状を製作した際の製造誤差に起因する性能劣化を防ぐため、製造誤差に関する定義方法(形状定義、誤差分布等)について今後更に研究を進め、本手法の実用性向上を図る予定です。